

(仮称)南部コラボセンターの施設イメージ

1 気軽に人が集う「楽しい施設」

(仮称)南部コラボセンターがめざすのは、地域の日常を元気に、楽しくすることです。「特別な」「立派な」施設であるより、「馴染みの」「いつもの」「気軽な」施設であることが理想で、「用事のある人」だけではなく、「ふらりと立ち寄れる」ような、気軽に人が集う「楽しい場所」となるようめざします。

2 一体感のある「複合施設」

複合施設は、機能ごとにバラバラになりがち。(仮称)南部コラボセンターは、生活、学習等支援拠点機能など5つの機能がつながり、連続し、混ざり合った一体感のある施設とします。

子育て層、青少年など、利用者層ごとに1つのフロアに複数の機能を集めることで「ヨコにつないだり」、吹き抜けをもうけて「タテにつなく」など、「つなくデザイン」を工夫します。

3 頼りになる「専門施設」

(仮称)南部コラボセンターは、「誰でも」「いつでも」利用できる気軽な施設であると同時に、「誰かに」「必要なときに」しっかりとサポートできる専門施設として、地域住民を支える施設になることが求められます。

必要な支援体制と相談室などのスペースが整った施設にするとともに、「何かを」「誰かと」打ち込むことのできるような居場所として利用される施設をめざします。

4 まちに溶け込んだ、まちの魅力を発信する「名所施設」

(仮称)南部コラボセンターは、南部地域の活性化のきっかけとなり、シンボルとなることをめざすものです。そのような施設に求められるのは、「わかりやすさ」「入りやすさ」「かっこよさ」でしょう。

「わかりやすい」施設とするために、地域の誰もが知っているまちのランドマーク(目印、名所)となるデザインを、「入りやすい」施設とするために、よそよそしくない、まちとなじむデザインを、「かっこよい」施設とするために、「行きたくない」「すめたくない」「行かせたくない」ようなデザインを検討します。

5 災害時の拠点となる「防災施設」

南部地域は、阪神・淡路大震災の際には、市内で特に大きな被害のあった地域で、現在でも、古くなった木造住宅が密集して集積しているなど防災面での課題を抱えています。(仮称)南部コラボセンターは、地域住民の暮らしを支える拠点として整備するもので、その考え方は災害時においても同様です。

平時だけでなく、災害時においても地域住民の暮らしを支える拠点になるよう検討します。

連携事業 / 南部地域の活性化と(仮称)南部コラボセンターの基本構想の具体化に向けてさまざまな取り組みを展開しています。

学力向上支援事業(日曜学習)

平成24年(2012年)11月4日～
平成25年(2013年)2月17日(日)10時～12時
対象:庄内小学校6年生 第六中学校全学年
講師:北野(きたの)隆司(たかし)さん(元・第十五中学校校長)
教職を希望する大学生・学習指導経験者(成人)

南部地域中学校で開催されている、放課後学習事業などの学力向上をめざす事業を、地域連携のもと公民館の施設・人的ネットワークなどを活用し、一体的に推進することをめざし、日曜日の午前中に開催しました。参加生徒は学校とは違う雰囲気の中、和やかに楽しく学習していました。



日本航空の折り紙ヒコーキ教室

庄内公民館・豊南小学校
・健全育成会と連携事業

平成26年(2014年)2月9日(日)10時～12時 対象:小学生と保護者100名
当日参加:80名 参加費:100円 会場:豊中市立豊南小学校 体育館
講師:日本航空の整備士パイロットほか6名

日本航空の整備士、パイロットのお話がありました。子どもたちは30分間集中して話を聞いて、質問も積極的にしていました。折り紙ヒコーキ教室が始まりました。折り紙ヒコーキは、ヘソヒコーキといかヒコーキの2種類を作り、最後は学年ごとと保護者も一緒に、折り紙ヒコーキ競技を行いました。学年別に最も遠く飛んだ紙ヒコーキには、日本航空からの景品として折り紙ヒコーキ・スカイキングのプレゼントがありました。



(仮称)南部コラボセンター基本構想(概要版)

子どもに夢を！ 地域に輝きを！

南部地域がまとまる、つながる、元気になる。

豊中市

平成26年(2014年)3月発行
デザイン協力/街角企画株式会社